

緑の風 NEWS



JR東労組



JR東労組ホームページ

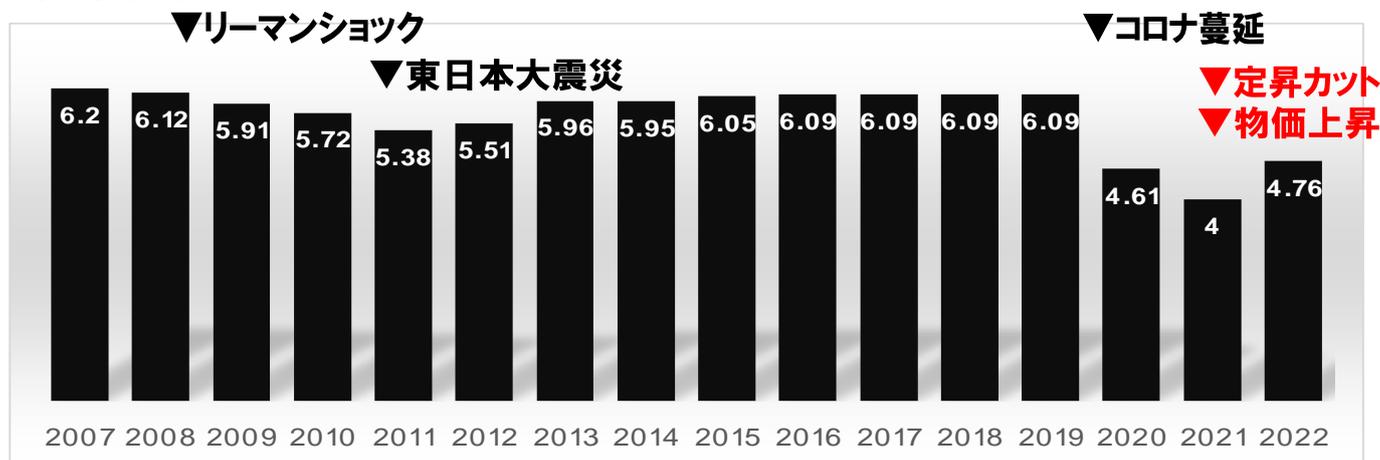
East Japan Railway Workers' Union 2023年 10月24日 No. 35

年末手当要求 議論点その1

3.7ヶ月要求の根拠

年末手当の推移と私たちの生活の変化

JR東日本の期末手当（夏季手当+年末手当）は、2007年度の年間6.2ヶ月が最大支給月数となっています。その後、リーマンショックの影響で2009年の年間賞与が6ヶ月を下回るものの、東日本大震災の影響から回復した2015年に年間6カ月を上回ってきました。そして、2019年の6.09ヶ月の翌年から、赤字・コロナを理由として2020年4.61ヶ月、2021年4.0ヶ月、2022年4.76ヶ月と期末手当が非常に低く抑えられ生活が苦しくなりました。その最中、21春闘で定期昇給の昇給係数2がカットされました。さらに追い打ちをかけるように、2021年から歴史的な物価上昇が始まり、私たちの生活はさらに苦しくなりました。



2023年 年末手当の要求根拠

JR東労組は、組合員・社員の生活実態（賃金抑制と物価上昇による生活苦）に加え、融合と連携により「過去最高の働き度だ」との声が出ていることから、過去最高の2007年度の期末手当を上回る要求を行いました。【夏季手当 2.5ヶ月+5万円：年末手当（要求）3.7ヶ月】

また、2007年度の営業収益は1兆9798億円に対し、2024.3（予想）は1兆9690億円とほぼ同額となっていますが、人件費が5457億円（2007年度）から3946億円（2024.3（予想））と大幅に削減されていることも見逃してはなりません。

要求満額獲得に向け組織拡大を実践しよう